

はじめに

近年、私たちを取り巻く社会構造や雇用環境は、様々な要因により、大きく、急速に変化しています。さらに、今、私たちの目の前にいる子供たち、そしてこれから誕生する子供たちが生きていく時代は、予測困難な、これまで以上に厳しい挑戦の時代を迎えると予想されています。

このような時代に求められるのは、学んだ知識や技能を定型的に適用して問題解決する力のみならず、自ら深く考え、知識や情報を統合して新しい価値を創り出す力、さらにはそのために多様な他者と協働できる力とされています。

これらの状況を踏まえ、県教育委員会では、グローバル化する 21 世紀の社会を生き抜き、社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促す新たな教育モデルの構築を目指し、平成 26 年 12 月「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定しました。

その具体的な取組の一つとして掲げてきたのが、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習である「課題発見・解決学習」の平成 30 年度の全県展開です。

平成 30 年度の全県展開とは、全ての学校で、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等において「課題発見・解決学習」の取組の実践がなされている状態です。

この実現に向け、平成 27 年度から「学びの変革」パイロット校事業をスタートさせ、小学校及び中学校 30 校をパイロット校として指定し、各教科及び総合的な学習の時間における「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組みました。

平成 28 年度には、パイロット校が開発した「課題発見・解決学習」のブラッシュアップ、若しくは新たな単元開発を目的として、実践指定校 46 校を指定するとともに、各市町教育委員会に、各市町の「学びの変革」推進協議会を立ち上げていただき、「課題発見・解決学習」の普及に向けた体制を整えてまいりました。

そして、平成 29 年度は、「学びの変革」推進協議会に、全ての学校が参加する体制を整え、パイロット校と実践指定校の取組を広く普及し、平成 30 年度の全県展開に向けた体制を整えました。

この 3 年間の取組により、「課題発見・解決学習」として開発された単元は、指定校だけでも、小学校、中学校合わせて実に 1000 を超えるほどになっています。着実に「課題発見・解決学習」は広がってきています。

本書は、それらの開発単元の中でも、各指定校の集大成ともいえる事例を、「主体的な学び」を充実させるためにはどうあるべきかという視点から再検討し、必要な要素を加えながら改善して掲載しております。各学校のこれからの単元開発に大いに参考になるものだと考えております。

ただし、それぞれの事例は、地域や子供たちの実態や各学校の目指す資質・能力等、様々な要因に応じて開発されています。各学校で実践される「課題発見・解決学習」もまた、事例を参考としつつも、学校を取り巻く状況、目の前にいる子供たちの実態に応じて改善していくことが重要です。

さらに、「課題発見・解決学習」を一つの柱としながら、そこに求められる様々な要素を踏まえ、日頃の授業改善にも取り組んでいくことが大切です。

本書が有効に活用され、平成 30 年度の「課題発見・解決学習」の全県展開、そして児童生徒の「主体的な学び」の実現の一助となることを期待しております。

最後に、本書の作成に際して、御協力いただきました各指定校関係者をはじめとして、作成に御協力くださった方々に心から感謝の意を表します。